

中国は、ロシアに潜水艦の設計技術協力を求める

漢和防務評論 20131023（抄訳）

阿部信行

（訳者コメント）

中国がロシアに潜水艦設計に関する技術協力を求めたとする漢和防務評論記事（20131023）を紹介します。

同記事によると、潜水艦技術に関する中露の協力関係は、中国が前のめりで、ロシアが極めて慎重姿勢であるようです。その理由は、中国は、現物の購入をちらつかせてロシアを騙し、技術だけを獲得しようとしているからです。

一方中国は潜水艦の運航に慎重で、潜航深度に高い安全係数をかけた制限を設けているとのこと。その理由はいろいろ考えられますが、可能性が高いのは潜水艦救難能力でしょうか。中国潜水艦は過去に不注意による大事故がありました。同記事にも落水による事故が報道されています。

KDR サンクトペテルブルグ平可夫、**YURI BASKOV** 特電：

中国に対するロシアの潜水艦設計技術協力について、次のような報道が何度かあった。すなわち”中国とロシアは、ディーゼル潜水艦の共同設計に関する初段階協定（枠組み協定）に署名した。この協定は、**AMUR** 型潜水艦技術を基本として、最終的に中国向け潜水艦をロシアで 2 艘建造し、中国で中国版新型潜水艦として 2 艘建造する” というものである。**KDR** は、この報道に関してロシアの **RUBIN** 中央艦船設計局副総裁 **ANDREY BARANOV** 及びその他ロシア海軍造船工業界の高級官員を取材した。まず第一に、ロシア造船工業界の高級官員は、**KDR** に対し次のように述べた。すなわち” 上述の報道は、正確でないため訂正が必要だ。第一、報道された” ロシアが中国のために **AMUR** を基本として新型潜水艦を 2 艘建造し、そのほかに中国が自力で同型潜水艦を 2 艘建造する等々の内容は、枠組み協定には一切明記されていない” と。また件の高級官員は” 初段階協定は、事実上、長期的な潜水艦技術に関する協力計画に過ぎない。すなわち、中国人が一連の問題リストを我々の研究のために提供し、中国人は、問題に関連する技術資料、ハンドブック、説明書を入手し、その後中国人技術者がこれらの技術をマスターするためロシア専門家に支援を求めると言うものだ” と述べた。言い換えれば、初段階協定は、中国へのロシア潜水艦技術の一部移転の可能性について触れただけである。どのような技術を中国に移転するかは、まさに今後議論する課題である。したがって現在、「中国のために 2 艘建造し、中国が 2 艘の先進型潜水艦を自力建造する」との初段階協定は存在

しない。正式協議すら行われていない。

中国人は、どのような潜水艦技術を求めているのだろうか？これに対し、ロシア造船工業界の権威筋は **KDR** に対し、”中国人は、空気濾過技術等を含む一連の問題リストを示し、我々が解決するのを期待した”と述べた。

MR.BARANOV は、**KDR** の取材を受けた際に、”中国側は、**AMUR** 型潜水艦を基本として上述の協力を行うことについて、明確には要請しなかった。彼らが主として求めるものは、ロシアの最新型潜水艦の設計図や関連文書である”と述べた。

” **KILO-636** 型潜水艦の某技術も含まれるのか？”との問いに、”当然含まれる”と回答した。

なぜ某媒体が **AMUR** の技術と報道したのだろうか？

MR.BARANOV は、次のように解説した。すなわち”その理由は、**AMUR** はロシアの最新型ディーゼル潜水艦であり、多くの最先進技術及び設計概念が集中しているからである。当然多くの国家も興味を示している。中国も例外ではない”、と。

”ロシアが現在研究中の燃料電池（**AIP**）も含まれるか？”との問いに、”それは含まれない。なぜなら中国は独自のスターリング・エンジン技術を保有しているからだ。したがってロシアはロシア式 **AIP** 技術を輸出する計画はない。中国との潜水艦技術協力問題は、現在は初段階計画であり、今後長期間の協議が必要である。2年後には具体的な内容を知ることができるかもしれない”と述べた。

これがロシアで最も権威ある潜水艦設計専門家が **KDR** に述べた最も明確な説明である。

KDR は次のように考える。すなわち”中国の潜水艦設計は、**KILO** 型潜水艦を獲得した後、通常型潜水艦設計においても **093** 型原子力攻撃型潜水艦設計においても **KILO** 型潜水艦の理念を最大限参考にしている”と。したがって **KDR** は、「中国は、構造上も、設計理念上からもロシア潜水艦の設計方式を徹底学習しようとしている」と考える。また中国は将来の原子力攻撃型潜水艦（**SSN**）の運

用法も、さらには戦略ミサイル潜水艦（SSBN）の設計方法をもロシアから徹底学習しようとしている。

KDR の観察によると、中国は必ずしも AMUR 型潜水艦を購入するわけではない。ただ設計図や技術の原本が欲しいのだ。したがって今回の中国の交渉術は、交渉を通じて技術のみを獲得しようとする過去の一貫したやり方に極めて類似している。中国が AMUR を購入したいとの意志をちらつかせる意図は、ロシアを騙すためである。これに対してロシア軍事工業界の最高級指導者は、”我々は中国のこの戦術を当然知っている。中国は過去に何度も同じ戦術を使った。しかし今回はどのような技術であろうと、提供した技術には相応の対価を求める”と述べた。

西側国の海軍情報官は KDR と交流した際に、”中国海軍潜水艦は、新時代のディーゼル潜水艦であっても潜航深度を制限している。50 乃至 100 M 以上の深度に長い時間潜航することが無い。当然、我々のソナーで容易に発見できる”と述べた。また”我々が不思議に思うことは、中国海軍は先進型 KILO-636 潜水艦の運用中にも潜航深度を制限していることである。設計基準によると、KILO-636 の潜航深度は 300 M である”と述べた。

ロシア造船工業界の専門家は KDR に対し、”我々は KILO 潜水艦を 600 M の深度に潜らせており問題はない”と述べた。

中国海軍内部の消息筋は、KDR に次のようなニュースを伝え、潜水艦設計に欠陥があることが推測された。すなわち、最近 039A 型潜水艦が水上航走時、一名の水兵が落水して溺れた。艦長は海中に飛び込み救助しようとした。しかし彼が身に着けていた命綱を繋いでいた船体の接続部分が断裂し艦長は溺死した、と。このため中国海軍は造船所に対して怒りをぶつけた、という。

以上